

Frente

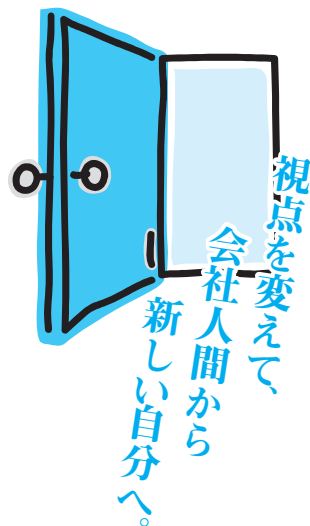
フレンテ

フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

vol.30
2007.7

男性
必見

2007年大量定年時代はじまる 輝け!セカンドライフ 地域に参画するためのヒント



三重県男女共同参画News

つながるひろがるメッセージ

手を取り合い、三重県の男女共同参画推進へ

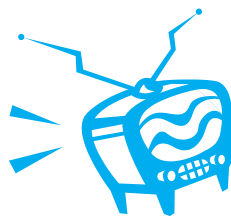
「三重県内男女共同参画センター3館連携映画祭」開催!

Review

県民との協働事業

私たちは溢れるメディアとどのように接するのか

諸橋泰樹さんのエッセイ



「構成されたメディアと
構成されたジェンダーとの親密な関係」

Pick up

三重の女性史作成は今

度会町にゆかりの
教育に尽力した女性のルーツをたどる旅



どうなっていますか?
あなたの市町の男女共同参画
「ネットワークづくりに向けて」
三重県の男女共同参画を推進するために、
ネットワークづくりに向けて、県内各地の活動者が集合!

芥川賞作家 三田誠広さん講演会 開催！
「明るく自由な第二の青春が始まる」

共催：NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 三重支部

ファンファーレ事業って？

フレンテみえでは毎年度の重要テーマを大きく打ち出し、スタートする事業をファンファーレ事業として開催しています。



三田 誠広 (みた まさひろ) さん

1948年生まれ。早稲田大学文学部卒。1977年『僕って何？』で芥川賞。昨年度まで早稲田大学客員教授。日本文藝家協会副理事長。日本文藝著作権センター理事長。著作権情報センター理事。日本点字図書館理事。文化庁著作権分科会委員。

〔主な作品〕
『いちご同盟』『団塊老人』『父親が教えるツルカメ算』『ダ・ヴィンチの謎ニューヨークの奇跡』

フレンテみえでは平成19年度のファンファーレ事業として「2007年団塊世代の大量定年」を焦点に、「輝け！セカンドライフ」と名付け、団塊世代を対象に芥川賞作家 三田誠広さんの講演会を行いました。定年後、肩書きをはずし、固定的な性別役割分担意識を解消し、家庭や地域と関わっていくにはどうすればよいか、定年後の生活設計も含め、セカンドライフについて考えました。また、県内で活動する団体「嬉野アイリス」による寸劇「もうやめた！みの虫生活」上演、(社)三重県レクリエーション協会による体操と活動紹介、ファイナンシャルプランナーによる無料相談会、「輝け！セカンドライフ」パネル展と関連図書展示など盛りだくさんの内容で開催しました。50～60歳代の男性を中心に、たくさんの方にご参加いただきました。

三田誠広さん講演会から「第二の青春を楽しむため」のアドバイスをピックアップしてご紹介します。

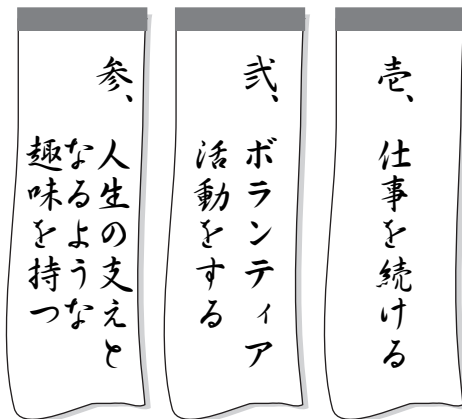
第二の青春を楽しむために・・・

定年を人生の終わりと考えずに、積極的に社会参加しないといけない。社会参加の方法には3つあります。(図参照)

私は今が青春だと思っています。定年は、若いころにやりたくてもやれなかったことを実現できる本当の自分の人生が始まる時です。20歳の頃を思い出し、生き甲斐であるという人生の目標を持たなければいけません。また一方で「僕って何？」ということを実際に考えないと、生き甲斐を失って、鬱状態になりかねない危ない時期でもあります。

日本では今、学童保育が大変です。地域ぐるみで皆で楽しみ支えあいながら子どもが健全に育っていけるような社会を作っていく必要があります。そのためには、団塊老人に頑張ってもらってボランティアとして活動をする、という方法もあります。

社会参加の方法



三田誠広さんからの
ワンポイント
アドバイス



今までは「会社」というコミュニティーがありましたが、これからは地域のコミュニティーを我々の力で作っていかなくては

いけない。地域で役立つボランティア活動をやったりNPOを作ったり、起業したり、商店街の空き店舗を活用してコミュニティーを作ったり、探し出してみたらやることはいっぱいあると思います。皆でやるんだから平等であるという民主主義の精神が必要。過去はどうだったかということは関係ないですね。

こうして一人の人間としてコミュニティーに参加できることは喜びであるという気持ちになって参加し楽しんでいくと、元気で明るく楽しい老人になる。これを見た若者たちが将来に希望を持って元気になっていくと日本はいい国になると思います。

「セカンドライフ応援塾～地域デビューその前に～」

ファンファーレ事業「輝け！セカンドライフ」事業の一環として、男性を対象に「セカンドライフ応援塾～地域デビューその前に～」を開催しました。生活面での自立を目的とした料理実習と、語り合いの場を設け、地域との関わり方などを考える講座を行いました。

「地域活動を上手にしている男性たちには共通の傾向がある」という講師の高井正さんのお話からピックアップしてご紹介します。

地域活動の極意

参、
ういの合
るこご理
とと性
に、がだ
耐進
えま
えな
も

式、
しなむ努偏性
ろ出し力見や
が会ろをを世
れいさ急も代
るをまらたに
おざずな
まい

壹、
るをとシ入人
率よッれの
先りプ、意
しもをり見
て下とーを
で働るダ受
ききこーけ

男性講座一般コース
セカンドライフ応援塾
～地域デビューその前に～

①「簡単！男の家庭料理」
～おいしく作ってためになる～
講師：山田 亮さん（スーパー主夫）

②「地域デビューその前に」
～地域参画入門～
講師：高井 正さん
（NPO法人VCAS理事、立教大学
兼任講師）


地域活動に参加していくには、「〇〇の社長をしていた」といった肩書きだけではやっていけません。（↑図参照）
そして、まずは夫婦で、そして地域でのコミュニケーションが大切。枠組みに囚われずに色々な感覚・考えを受け止めることがコミュニケーションの基本です。
多様な価値観に出会うことで「らしさ」から自分を解き放つことも大切です。



こんな男性グループが活躍しています！

File01


ひろみ会



「フレンテみえ」で開催された『男性の家庭科』や『男性セミナー』など男性向けの各講座の修了者たちが、「このまま終わっては・・・。」と、自主的に始めた男の手料理教室です。月に一回、いっぱい作って、いっぱい食べて、いっぱいおしゃべりしています。

File02

ちよいワルおやじの会（仮称）



「フレンテみえ」の男性講座専門コース「イベントを創ろう」の修了生による男性グループ。家事や育児にも目を向け、自分たちも楽しみながらこなしていく新しい時代の「ちよいワルおやじ」たちです。フレンテみえでの事業参加を中心にスタートし、活動しています。

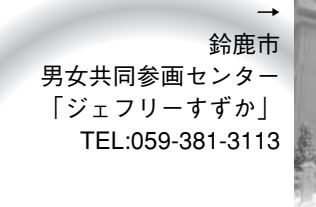
このように地域で活動する男性も増えてきています。新しい動きが広がりつつあるのではないのでしょうか？
フレンテみえでは、地域講座として、男性講座一般コース「お父さんと一緒に腕まくり」を開催する予定です。
開催地は尾鷲市（8月19日（日））です。また、志摩市（主催）でも開催する予定です。
詳しくは、各市またはフレンテみえまでお問い合わせください。

つながるひろがるメッセージ

三重県内の3つの男女共同参画センター、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」、鈴鹿市男女共同参画センター「ジェフリーすずか」、四日市市男女共同参画センター「はもりあ四日市」は三重県の男女共同参画を推進するため、まずは3つのセンターが手を取り合い、様々な形で連携していこうと取組を進めています。この動きが県内全域へ広がっていくことを願っています。



↑ 四日市市
男女共同参画センター
「はもりあ四日市」
TEL:059-354-8331



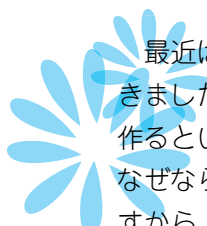
→
鈴鹿市
男女共同参画センター
「ジェフリーすずか」
TEL:059-381-3113



←
三重県
男女共同参画センター
「フレンテみえ」
TEL:059-233-1130

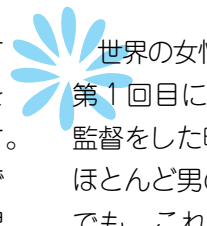
三重県内 男女共同参画センター 3館連携映画祭 開催！

連携事業のひとつ、「三重県内男女共同参画センター3館連携映画祭」第1弾、映画『三年身籠る』上映&シネマトークを6月2日(土)にフレンテみえで開催しました。シネマトーク「映画でみる男女の生き方」より、講師 小藤田千栄子さん(映画・演劇評論家)のお話から抜粋してご紹介します。



最近、女性監督の作品が非常に増えてきました。女の人が、女の手で見て映画を作るといことは絶対に必要だと思います。なぜなら、この世の中は男と女が半々です。ですから、私は、あらゆることにおいて、男女が半々であることが望ましいことだと思っています。でも、映画製作の現場は圧倒的多数が男の人だったんですね。この男の人たちが考える女のあり方というもの長い間、世界中で流布されてきたわけです。

でもね、やはり世の中というのは進歩している。「そうじゃないんじゃないか」「女も意見を言っていないんじゃないか」という運動がアメリカで起こってきた。これは60年代後半に、ウィメンズ・ムーブメントとか女の運動とか言われていますが、世の中の女性の動きが変わってきますと、映画は必ずそれを反映します。



世界の女性監督作品を上映する「東京国際女性映画祭」第1回目にフランスの女優ジャンヌ・モローが自身で監督した映画の舞台挨拶で言っていたこと。「映画は、ほとんど男の人が作っていた。これは男の文化であった。でも、これからは女性も参加して映画製作をし、男と女の共同の人間の文化にしていかなくてはならない」。「ああそうか」と。人間の文化というのは、男女半々で、双方の意見があって、初めて成り立つ文化なのだという事を私たちは学びました。

「映画は時代を映す」。映画が映し出してきた女性像の変化を意識して観てみると、映画の楽しみ方が広がりそうですね。



シネマトークの内容は、HPにも掲載しています。

簡単に検索
できます！

クリック

フレンテみえ 検索

アクセスしてください！

事業報告のページをご覧ください。

フレンテまつり開催！

6/1(金)
6/2(土)

男女共同参画強調月間 *ff*

フレンテみえでは、国が主唱する男女共同参画週間(6/23~6/29)を含む毎年6月を男女共同参画強調月間 *ff* (フォルティッシモ) と位置づけており、様々な事業を行っています。

フレンテみえでは、毎年、日頃フレンテみえを拠点に活動されている登録団体のおまつり「フレンテまつり」を開催しています。

今年度は、28団体からなるフレンテまつり実行委員会で企画・運営をし、活動展示・ワークショップ・舞台発表・フリーマーケットなど、日頃の活動発表を行いました。また、交流・ネットワークづくりの場として盛り上がりました。その様子をフレンテ棟前の「知識の広場」の催しを中心にご紹介します。

2日間で、約1200名の
来場者で賑わいました。

フレンテ棟



男性グループも参加し、大活躍！

フレンテみえエントランスにはオープンカフェが登場！初めて会う人と話も弾む・・・



社団法人三重県レクリエーション協会による「アイダ アイダ」親子でコミュニケーションを！



知識の広場



フォークダンスクラブによるデモンストレーション。



男性グループによる昔あそび。「お父さん、休みの日は予約済み!!今日はお父さんと外に出て遊ぼう!!」

男性グループから父親の家庭参画を呼びかけるこんなメッセージも！



パパもママも家族みんなで子育て支援型フリーマーケットで買い物。



来年度は・・・

平成20年6月7日(金)・8日(土)を予定しています。お楽しみに!

6月23日(土)
開催!

どうなっていますか?

フレンテみえ企画・運営サポーター自主企画事業

あなたの市町の男女共同参画 ～ネットワークづくりに向けて～

フレンテみえ企画・運営サポーターが、男女共同参画週間にちなみ、三重県の男女共同参画をより一層推進するために、県内の活動者・活動団体が一堂に集まりネットワークを作る機会を企画・実施しました。県内の活動団体による先進的取組の事例紹介とテーマ別の分科会が行われました。そして、その後の全体会では、各分科会報告とネットワークづくりに向けた意見交換がなされました。

県民との協働事業

フレンテみえ企画・運営サポーターは、公募によるメンバー（平成19年6月現在 14名）それぞれの力を発揮し、フレンテみえと協働で事業を企画・運営しています。今回の事業は、サポーターが中心となって、企画から当日の運営を行いました。

分科会テーマ

- **テーマ1**
これからの男女共同参画推進活動に向けて
- **テーマ2**
地域で取組むことの難しさ克服に向けて
- **テーマ3**
「202030」(※)から見る我がまちな現状



↑ 事例発表は「常磐男女共同参画をすすめる会(四日市市)」「東員町男女共同参画まちづくり推進の会」の方にお話いただきました。終了後には、参加者から団体への発表依頼もあったとのこと。

県・市町女性議員の方にもご参加いただき、政策・方針決定過程へより多くの女性が参画するためには、一人一人が自己の問題として捉え、また女性が参画できるような環境を地域で作っていくことも重要である、などの話し合いがなされました。



↑ 分科会の様子。

Pick up

三重から世界へ、
教育に尽力した「河井道」
の女性史作成は今

三重県出身で教育に尽力し、のちに恵泉女学園を創設した「河井道」さん。恵泉女学園同窓会の研修旅行として、河井道さんのルーツを辿る旅にフレンテみえも同行させていただきました。

河井道さんは、明治10年に伊勢の神官の娘として生まれ、8歳の頃に北海道に移住。札幌のスマス女学校に学び、キリスト教の信仰を得、当時札幌農学校で教鞭をとっていた新渡戸稲造の教えを受け、アメリカのプリンマール女子大学に留学しました。帰国後は女子英学塾(現津田塾大)で教鞭をとり、日本YWCAの創設に尽力。昭和4年には恵泉女学園を創立。第2次世界大戦後は、教育基本法作成部会のメンバーの中でただ一人の女性として参加し、教育に尽力しました。



河井道さんの母が度会町の牧戸出身であり、北海道へ家族で移住後、母親が怪我のために牧戸へ帰ってきて暮らしていたことから、河井道さんも度々この地を訪れ、地元の子どもたちのために日曜学校を開いていたそうです。



↑ 地元の方の案内で、河井道さんの母の家が建っていたという土地も訪れました。もとはお寺跡だったというお話。今は茶畑が広がっていました。



← 恵泉女学園が平成19年2月28日に植樹した彼岸桜。幼少期の思い出深い桜として、河井道さん著書「わたしのランタン」の中にも出てきます。

三重の女性史作成

フレンテみえでは、近現代(明治～昭和)の三重の女性がどのように生き、活動してきたのか、女性の暮らしを振り返り紹介するため、「三重の女性史」を作成しています。平成21年完成に向け、現在、県民からなる女性史調査研究員の皆さんと協働で資料収集や聞き書き調査を行っています。



※ 恵泉女学園史料室及び度会町教育委員会教育長の大西さん(夫妻)に資料提供いただきました。

↑ 母・菊枝さんのお墓の隣にひっそりと並ぶ「河井道之墓」。墓石の横にはキリスト教の十字架が刻まれています。

このように、活躍しつつも歴史の中に埋もれてきた三重の女性はまだ多いです。フレンテみえでは、このような女性の歴史や当時の様子を県民の皆さまに知っていただくとともに、現代の女性の勇気づけとなるよう、作成に向け、調査を進めています。

構成されたメディアと 構成されたジェンダーの親密な関係

1月の日曜日夕方、自宅に全国紙大阪本社の新聞記者から電話が入りました。関西テレビ制作「発掘！あるある大事典II」の納豆ダイエットを扱った番組が、番組で言っていたようなモニター調査も行なっておらず、また海外研究者のお墨つきもなく、データの多くが捏造だったとの記者会見が行われたということです。

明日の朝刊に載せたいからコメントをくださいというので、それでは後ほどメールしますと言って、メディアは専門家の調査や研究成果を知る機会を持たない視聴者や読者の代わりに特権を持っているが、人びとがデータの信憑性を確かめるすべがないのをいいことにデータを捏造することは背信行為であり、視聴者の信頼性を失い、公権力介入を口実になる、といったような内容のことを電子メールで送りました。

ところが、翌日の朝刊が届けられて大きく扱われた記事に、送ったコメントは載っていませんでした。それは昨日の夜、やはり関西で、カラオケボックスが火事になって死者が出、そのことについても紙面を大きく割かねばならなくなり、記事がオーバーフローしたためでした。

私たちが最終的なパッケージとして見ている番組や記事は、放送時刻や印刷・放送時刻に追われ、しかも放映時間枠や紙面スペース、ページ数といった物理的条件、つくり手の思惑、政治家からの圧力、スポンサーの意向など、様々なフィルターを通してできあがった、つまり構成された「産物」です。しかし私たちはそういった「駆

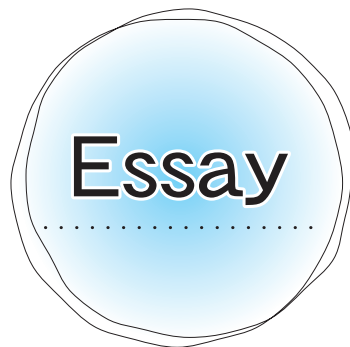
け引き（ネゴシエイト）」を知らずに、できあがったものだけから知識を得、判断し、話題にし、現実を生きています。今回の場合、モロハシのコメントは人びとにとって「なかったこと」になります。

同様に、メディアに登場する何気ない女性像・男性像も、「構成されたもの」であることをよく認識しておく必要があります。たとえば天気予報一つとってみても、服装の試着があり、台本があり、リハーサルがあり、それらの中に「お天気お姉さん」のピンクのワンピースに男性の気象予報士のブルーのブレザー、「今日はお洗濯日和ですね」という彼女に割り振られた台詞に「発達した雨雲がどうのこうの」という男性が喋るべき解説、そして「**ちゃん、もう少し斜め向いてよ」という指示に「○○さん、こちらにカメラ視線を」という指示などがあります。テレビ画面では“自然”に見える天気予報の女性と男性も、このように「つくられて」いるのです。

私たちが「女性らしい」「男性らしい」と感じているものごとの多くが、こうやってパッケージとして構成され商品化されている情報だとしたら、日ごろ当たり前と思っている女性らしい（男性らしい）服装やしぐさやことばとは、一体何なのでしょう。

「性というつくりごと」について気づきを与えてくれる恰好のテキスト（読み解きの素材）が、メディアだと言えます。そんなメディア・リテラシーの視点でこれからテレビ・新聞・雑誌等に接してみたいかがでしょう。

フレンテみえでは、平成19年度男性講座専門コース「表現してみよう！伝えたいメッセージ～フリーペーパー、ポスター、絵本などを作ってみよう～」を開催しています。私たちの価値観に大きな影響力を与えているメディアをどう読み解くか、講座講師の諸橋さんから視聴者へのメッセージです。



執筆者紹介

もろはし たいき
諸橋 泰樹
さん



大学院在学中から（社）日本新聞協会研究所で委嘱研究員として新聞をはじめ各種メディアの調査研究に従事。1993年から尚美学園短期大学教員。1999年よりフェリス女学院大学教員。

【主な著書】「雑誌文化の中の女性学」「季節の変わり目」「ジェンダーの罫」「ジェンダーの語られ方、メディアのつくられ方」「ジェンダーとジャーナリズムのはざままで」

図書紹介



図書はフレンテみえ情報コーナーで貸出しています。

「ジェンダーの語られ方、
メディアのつくられ方」

著者：諸橋泰樹
出版社：株式会社 現代書館
発行：2002年12月

諸橋泰樹さんがフレンテみえにやってくる！

開催中！

男性講座専門コース
「表現してみよう！伝えたいメッセージ～フリーペーパー、ポスター、絵本などを作ってみよう～」

メディアを読み解く力を学びながら、実際にフリーペーパーなどを作成します。

開催日：5～11月 全7回
講師：諸橋泰樹さん ほか

*11/10「男女共同参画フォーラム～みえの男女（ひと）2007～」で
作成物の発表を行います。

男女共同参画フォーラム
～みえの男女（ひと）2007～

「男女共同参画の視点で進めるまちづくり」をテーマに、講演会やワークショップを開催します。1日目には、諸橋さんをお招きします。

開催日：11月9日（金）
10日（土）

「みえチャレンジプラザ」が近鉄四日市駅前にオープン!

チャレンジ相談員(キャリアカウンセラー)があなたの「やりたい気持ち」を応援します。

「みえチャレンジプラザ」では、女性の仕事やボランティア活動などへのチャレンジをお手伝いします!

お子様連れでも安心してご利用いただけるように、相談コーナーから見える位置に託児コーナーを設置しています。また、授乳やオムツ換えができるベビールームもあります。

例えば...

- 自分に合った仕事があったけれど、何ができるかな?
- 子どもが小さくて、育児との両立がむずかしいかな?
- ボランティアに興味があるんだけど、どうしたら参加できる?
- キャリアアップ(スキルアップ)したいなあ
- 自分の趣味や特技、知識を生かして会社を起こしたい!

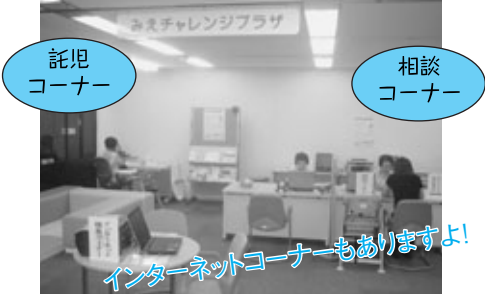
などなど

「チャレンジ相談コーナー」で、あなたの「チャレンジ」を一緒に考えてみませんか。

お電話でも相談できます。レッツ・サン・カクと覚えてね!

お気軽にお越しください!

(市外局番もお忘れなく) **059-356-0239**



【問い合わせ先】
所在地/〒510-0067 四日市市浜田町4-20 JA三重四日市ビル6F
時間/月～金 午前8時30分～午後7時
土曜日 午前10時00分～午後5時
休日/日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
連絡先/TEL: 059-356-0239 FAX: 059-356-3955
e-mail: challpla@pref.mie.jp

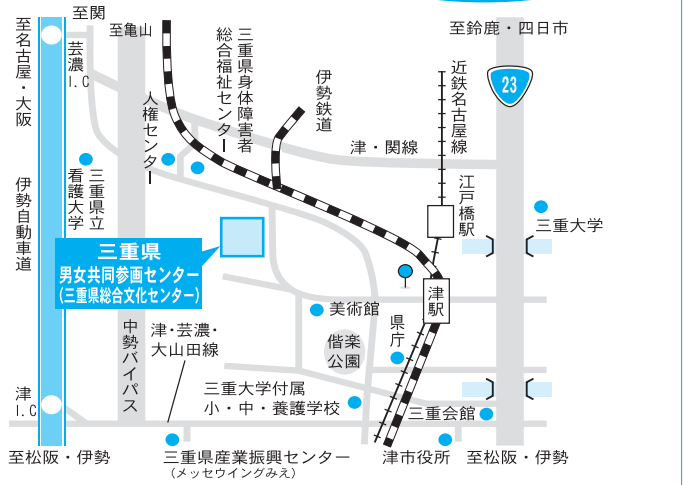
※受付で「チャレンジ相談」と言って、奥の方までお入りください。

2007 男女がいきいきと働いている企業 募集!

男女がともに能力を発揮できる企業、仕事と家庭の両立ができる企業の取組は、働く側からはもちろん、企業側からもこれからの社会において重要な事として注目されています。三重県では、男性も女性も各々が持てる力を十分に発揮できる「働きがい」のある職場づくりを目的に、男女がいきいきと働いている企業を表彰しています。女性の能力活用や次世代育成支援などに積極的に取り組まれている企業からの応募や、労働組合などからの推薦をお待ちしています。



三重県男女共同参画センターまでのご案内



*どんな取組をしている企業?

- 女性の能力活用** 女性の能力発揮や職域拡大の推進・男女均等なキャリア形成のため、従来の制度や慣行を見直し、新たな取組や制度を導入した企業。
- 仕事と家庭の両立・ファミリー重視と働きやすさ** 仕事と家庭の両立支援のための制度を法律を上回って実施している企業、安心して子どもを生育育てられるよう努力している企業。
- 地域への社会貢献 地域社会と共存できる企業** CSR(企業の社会的責任)活動を規定し、地域社会と共存する企業、ボランティア活動・NPO等を支援している企業。

*対象は?
原則として、県内に本店または主たる事業所があり、営利を目的に経済活動を行う企業。

*応募期間は?
平成19年7月2日(月)～8月31日(金) 必着

応募の詳細お問い合わせ
三重県生活部勤労・雇用支援室
TEL: 059-224-2454
e-mail: kinko@pref.mie.jp
ホームページ <http://www.oshigoto.pref.mie.jp>

休館日 毎週月曜日
年末年始(12月29日から1月3日まで)
交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フロントみえ
〒514-0061 三重県津市一身上津部田1234番地
TEL: 059-233-1130 FAX: 059-233-1135
URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>
E-mail: frente@center-mie.or.jp